

# 日本百街道紀行

街道とまちづくり

第61回

ぶり街道

## 越中・飛驒と信州を結ぶ ぶり街道と飛驒人の関わりについて

飛驒市長(岐阜県)

都竹淳也



### 飛驒市の概要

平成16年2月1日に、古川町、河合村、宮川村、神岡町の2町2村が合併し、飛驒市が誕生した。本市の周囲は3000mを超える

飛驒山脈などの山々に囲まれ、総面積792・53km<sup>2</sup>の約93%を森林が占めている。年間を通して、平均気温11℃で四季の移り変わりを肌で感じる事ができ、とても自然に恵まれた地域である。このように飛驒は海がなく、山国であるため、古来生活に欠かせない塩や魚などは他国、特に北国の越中(富山県)に依存していた。

### 飛驒人とぶり街道

現代のように鉄道や道路が発達する以前、飛驒の人々は険しい峠がある街道を往来していた。江戸時代の飛驒国の主要な街道には、大きく分けて、越中の東・西・白川の街道、信州への木曾・野麦の街道、美濃への益田・南北・郡上の街道などがあった。これらの街

道の開発は、天正年間(1573-1592)に飛驒を平定した金森長近の城下町の経営、産業の開発、運輸・交通政策とともに始まったとも言われている。

越中街道(富山・高山間)と、野麦街道(高山・信州間)は富山の塩ぶりを運ぶために利用されたこともあり、「ぶり街道」と呼ばれている。飛驒地方ではぶりを正月の縁起物とする習慣があり、また、お歳暮やお祝い品など貴重品として扱われていた。富山湾で水揚げされるぶりは、脂がのって味がよ

く、中でも寒ぶりは最高と重宝されている。越中ぶりは、富山湾で水揚げされてから飛驒に入るまでの間に時間がかかったため、「塩ぶり」にして飛驒に運ばれた。そして、いったん高山の間屋に入り、そこを拠点に飛驒各地や、信州、美濃へ運ばれた。これが「ぶり街道」と言われた由来で、飛驒から各地へ運ばれるぶりは「飛驒



安峰山展望台から見た飛驒古川の景色



城下町のたたずまいを残す飛驒古川の瀬戸川と白壁土蔵



国道41号線沿いで人の往来でにぎわう飛驒産直市「そやな」

ぶり」と呼ばれた。

また、越中街道は、ぶりに限らず、古くから地域文化や人・物の交流に重要な役割を果たしてきた。特に塩は貧富に関わらず生活をする上で必要不可欠なものであったことから、「塩の道」というぶり街道にも勝る重要な役割があった。越中街道は米・塩・魚などさまざまな物資が運ばれ、飛驒の人々にとっては生命線であるとともに、越中の人々にとっては経済の動脈であり、どちらにとっても極めて重要な道であった。ま

た、多様な文化の交流が生まれた道でもある。

## 現在のぶり街道や各市の交流

現在のぶり街道は、北から富山県富山市、岐阜県飛驒市、高山市、長野県松本市の4市の自治体や商工・観光団体などによる「ぶり街道推進協議会」が組織されている。

この協議会は、江戸時代から山湾のぶりが飛驒を経て信州に運ばれた経緯を踏まえ、街道沿いの地域が連携し、広域観光や地域間交流、地域の活性化を図るために、平成9年12月に飛驒と信州を結ぶ安房トンネルが開通されたことを機に発足した。協議会では広域観光推進のため、パンフレットの作成や、イベントなどで観光PRを行い全国に向けて発信している。

また、現在の国道41号線はかつての街道とほぼ同じルートとなっており、日本でこれまでノーベル賞を受賞した12人のうち、白川英樹さん(化学賞)、利根川進さん(生物学・医学賞)、小柴昌俊さん(物理学賞)、田中耕一さん(化学賞)、梶田隆章さん(物理学賞)の5人に

ゆかりがある。このことから、古くからのぶり街道と、ノーベル賞受賞者が多く生まれた街道を掛け合わせて、「飛越交流ぶり・ノーベル出世街道」と名付けられ、日本風景街道としても登録されている。新型コロナウイルス感染症の収束後も、世界で観光客の動きが活

発となる中、街道をテーマとした各地域を結ぶ協議会の活動により、各地域間の周遊を促すことが重要である。富山、飛驒、信州を結ぶ「ぶり街道」は、時を超えて今も地域をつなぎ、人々が行き交う大切な道として利用されているのである。

## ぶり街道

### 越中、飛驒、信濃を結んだ越中街道、江戸街道

日本海に面する越中と山国・飛驒、信濃を結んだぶり街道は、越中街道と江戸街道を経路とした。越中街道は、越中側からは飛驒街道と呼ばれ、富山から飛驒古川を経て高山に向かう街道で、東街

道中街道 西街道の3道があった。天正14(1586)年の金森長近の飛驒入国とともに、越中の米・塩・魚などの産物を移入するために整備されたといわれる。越中街道を経て、飛驒高山を發し信州松本に向かう街道は、かつての政治の中心地と結ばれていたことから鎌倉街道や江戸街道と呼ばれ、江戸から幕府直轄地の高山に赴任する郡代・代官が利用する要路であった。



企画協力：全国街道交流会議「街道交流首長会」